

kW面からの電力確保状況（2022年2月4日時点）

<対象：2月第2～5週>

対象週	期間	備考
2月第1週	2月1日（火）～ 4日（金）	※
2月第2週	2月5日（土）～ 11日（金）	※
2月第3週	2月12日（土）～ 18日（金）	※
2月第4週	2月19日（土）～ 25日（金）	※
2月第5週	2月26日（土）～ 28日（月）	※

※毎週情報更新予定

- 本年10月の需給検証報告後の変化を考慮し、気象予報を踏まえた需要想定や発電機の計画外停止状況を監視し、需給バランスを確認します。（モニタリング期間は12月初～2月末を予定。）
- 具体的には、1ヶ月程度先までの週別バランスについて、需要を厳気象H1需要等に設定し、必要な供給力が確保できているか、リスクケースも含めて週単位での需給バランスを予備率として確認します。
- 前月末に翌月1ヶ月分の週別バランス（例：第1～第5週）、当月半ばに最新の供給力情報等をもとに情報更新し（例：第3～第5週）、公開します。但し、高需要が見込まれる1月、2月については毎週情報更新を実施すると共に、想定以上に大規模な供給力減等があり需給バランスの悪化が予見される場合には、確認できたタイミングにて速やかに追加公開します。
- 需給バランスの悪化が予見された場合には、国や一般送配電事業者と連携し需給対策を講じます。

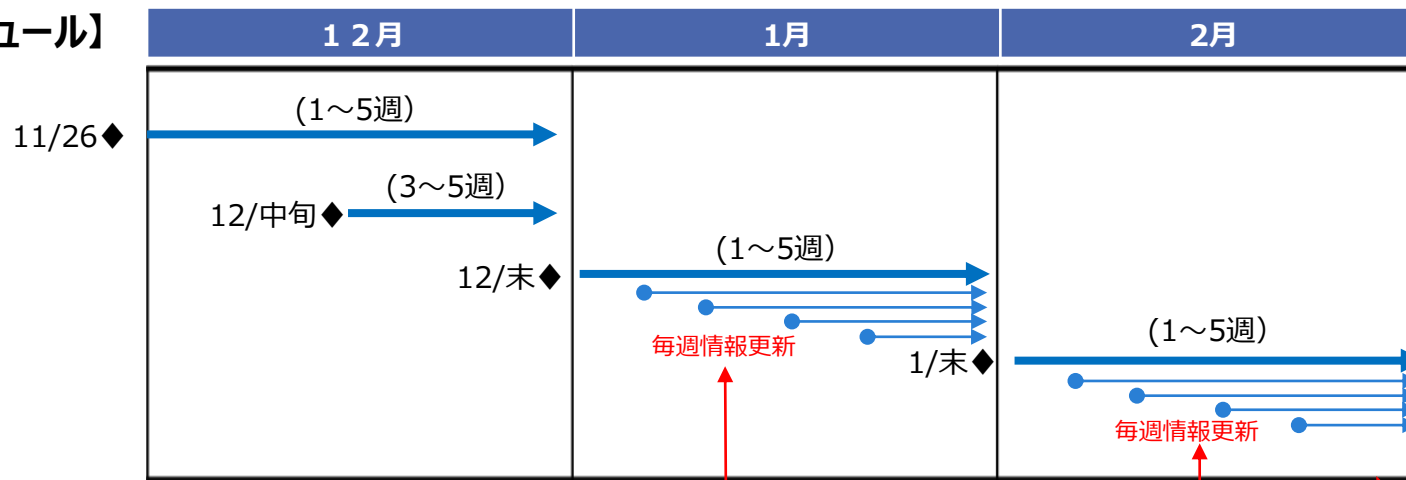
【参考】 各需給確認の取り組みにおける前提条件の比較

前提条件	需給確認の取り組み	
	需給検証報告	kWモニタリング
想定需要	10年1回程度の厳気象H1需要	系統情報サービスで公表される電力需要予想・供給力
想定需要の見方	リスク対応としての需要	至近の気象予報から一般送配電事業者が想定した需要
供給力	電源Ⅰ'及び火力増出力分を加えた量の供給力	至近の情報に基づく需要
	電源の補修による供給力減分を月平均値、計画外停止として2.6%の電源が停止すると想定した値	一般送配電事業者が集約し当機関に提出される供給力
電源停止リスク（供給力）	計画外停止率2.6%を供給力から減少	電源の補修及び計画外停止は実態を反映した値
		需給バランス評価時点の計画外停止を反映

- kWモニタリングの評価・公表は以下の二つの表をもって行います。
 - リスクケースを適用した場合の広域的評価（広域ブロック予備率）
 - リスクケースに加え、「月間需給予想（又は週間の広域ブロック情報）」及び「過去の最大需要」を適用した場合の評価
- なお、需要減を見込み電源補修計画を反映している週は、H1需要をリスクケースとした場合に極端に予備率が低くなり誤ったメッセージとなる場合があります。その場合は別のリスク需要を適用します。
 - リスクケース需要はH1需要適用を基本としますが、過去5年間の最大需要実績を参照し、当該週の最大需要が各月の最大需要に対し大きな開き（ $\gg 10\%$ ）があった週については、H1需要に代わりH3需要を適用します。
 - 今冬のモニタリングにおいて、上記に該当する週は12月第1週、1月第1週及び2月第5週※となります。
- 公表後に新たな計画外停止が発生した場合には、需給バランスの再評価を実施し、再評価の結果、予め設定した広域ブロック予備率の低下が確認できる場合には、速やかに追加評価結果として公表します。

※今冬の需要実績動向を踏まえ、2月第5週のリスクケース需要をH1需要にて評価(2022.1.28追記)

【公表スケジュール】



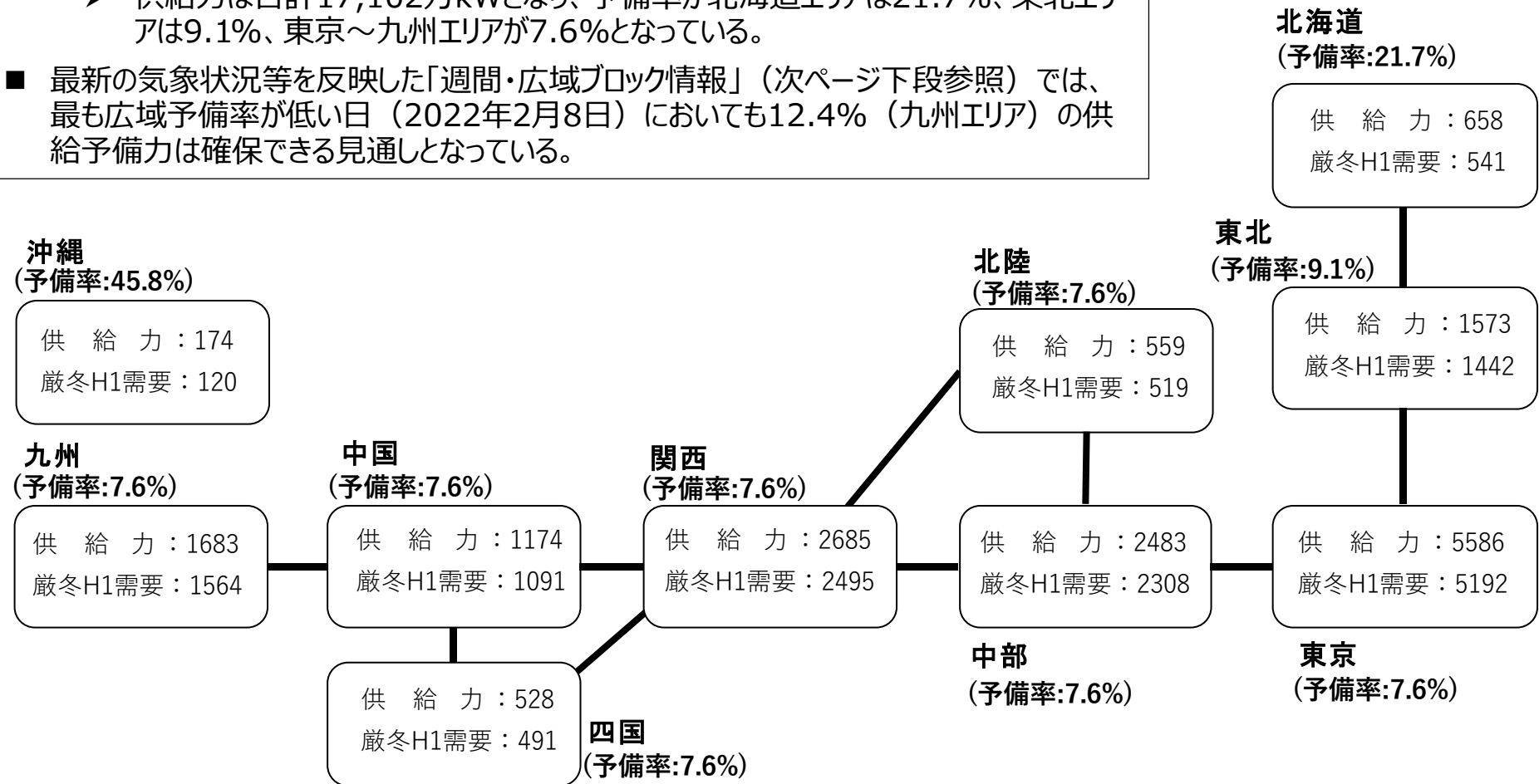
計画外停止情報の確認・再評価、要すれば追加公表

【2月第2週】 リスクケースを適用した場合の広域的評価

<需給概況>

- 2月第2週に、**10年1回程度の厳冬需要（厳冬H1需要）が発生した場合**を想定。
 - 供給力は合計17,102万kWとなり、予備率が北海道エリアは21.7%、東北エリアは9.1%、東京～九州エリアが7.6%となっている。
- 最新の気象状況等を反映した「週間・広域ブロック情報」（次ページ下段参照）では、最も広域予備率が低い日（2022年2月8日）においても12.4%（九州エリア）の供給予備力は確保できる見通しとなっている。

【単位：万kW】



<注記>

- 試算上、連系線の空容量利用により広域ブロックとなる場合には、各エリアで最大需要を記録する日時が必ずしも一致しない点（不等時性）を考慮し、各エリアの最大需要値から一定の割引を行っている。
- 公表日の朝時点てHJKS（発電情報公開システム）等において復旧未定の発電所は供給力に織り込んでいない。

【2月第2週】 各評価結果

リスクケース（H1需要を適用）

【単位：万kW】

	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	沖縄
供給力	658	1,573	14,697							174
需要	541	1,442	13,661							120
予備力	118	131	1,036							55
予備率	21.7%	9.1%	7.6%							45.8%

過去の最大需要（広域ブロックでの予備率評価）

	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	沖縄
供給力	658	1,573	7,943	6,754						174
需要	477	1,327	7,061	6,183						91
予備力	181	245	883	571						84
予備率	38.1%	18.5%	12.5%	9.2%						92.3%

週間・広域ブロック情報（2月第2週における最も広域予備率が低い日：2月8日（火））

策定週：2月第1週時点

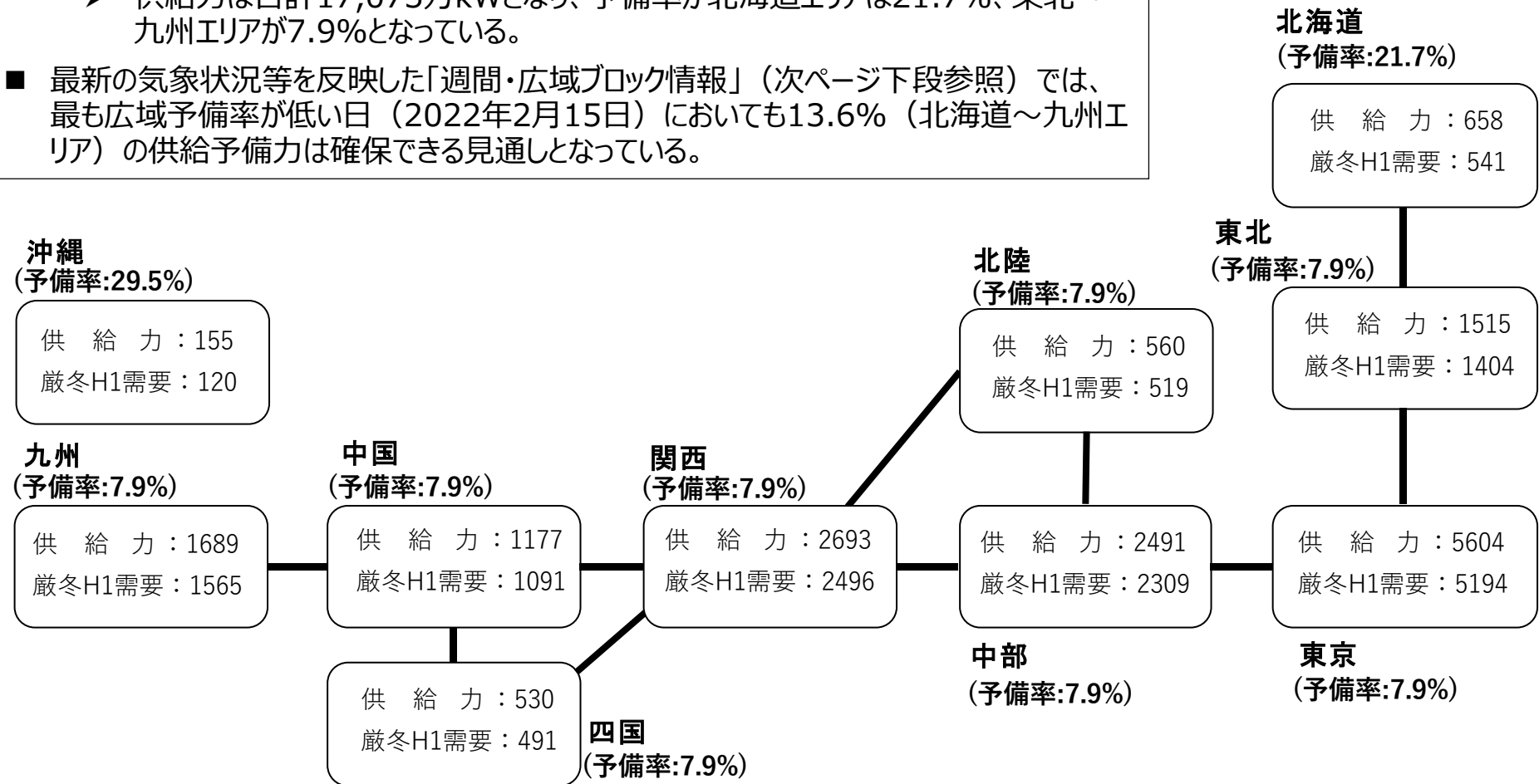
	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	沖縄
供給力	7,668			7,757					1,540	153
需要	6,626			6,648					1,370	100
予備力	1,042			1,109					170	53
予備率	15.7%			16.7%					12.4%	52.4%

【2月第3週】 リスクケースを適用した場合の広域的評価

<需給概況>

- 2月第3週に、**10年1回程度の厳冬需要（厳冬H1需要）が発生した場合**を想定。
 - 供給力は合計17,073万kWとなり、予備率が北海道エリアは21.7%、東北～九州エリアが7.9%となっている。
- 最新の気象状況等を反映した「週間・広域ブロック情報」（次ページ下段参照）では、最も広域予備率が低い日（2022年2月15日）においても13.6%（北海道～九州エリア）の供給予備力は確保できる見通しとなっている。

【単位：万kW】



<注記>

- 試算上、連系線の空容量利用により広域ブロックとなる場合には、各エリアで最大需要を記録する日時が必ずしも一致しない点（不等時性）を考慮し、各エリアの最大需要値から一定の割引を行っている。
- 公表日の朝時点ではHJKS（発電情報公開システム）等において復旧未定の発電所は供給力に織り込んでいない。

【2月第3週】 各評価結果

7

リスクケース（H1需要を適用）

【単位：万kW】

	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	沖縄
供給力	658	16,260								155
需要	541	15,070								120
予備力	118	1,190								35
予備率	21.7%	7.9%								29.5%

過去の最大需要（広域ブロックでの予備率評価）

	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	沖縄
供給力	658	6,966	9,294							155
需要	498	5,951	8,143							89
予備力	161	1,015	1,151							66
予備率	32.3%	17.1%	14.1%							74.4%

週間・広域ブロック情報（2月第3週における最も広域予備率が低い日：2月15日（火））

策定週：2月第1週時点

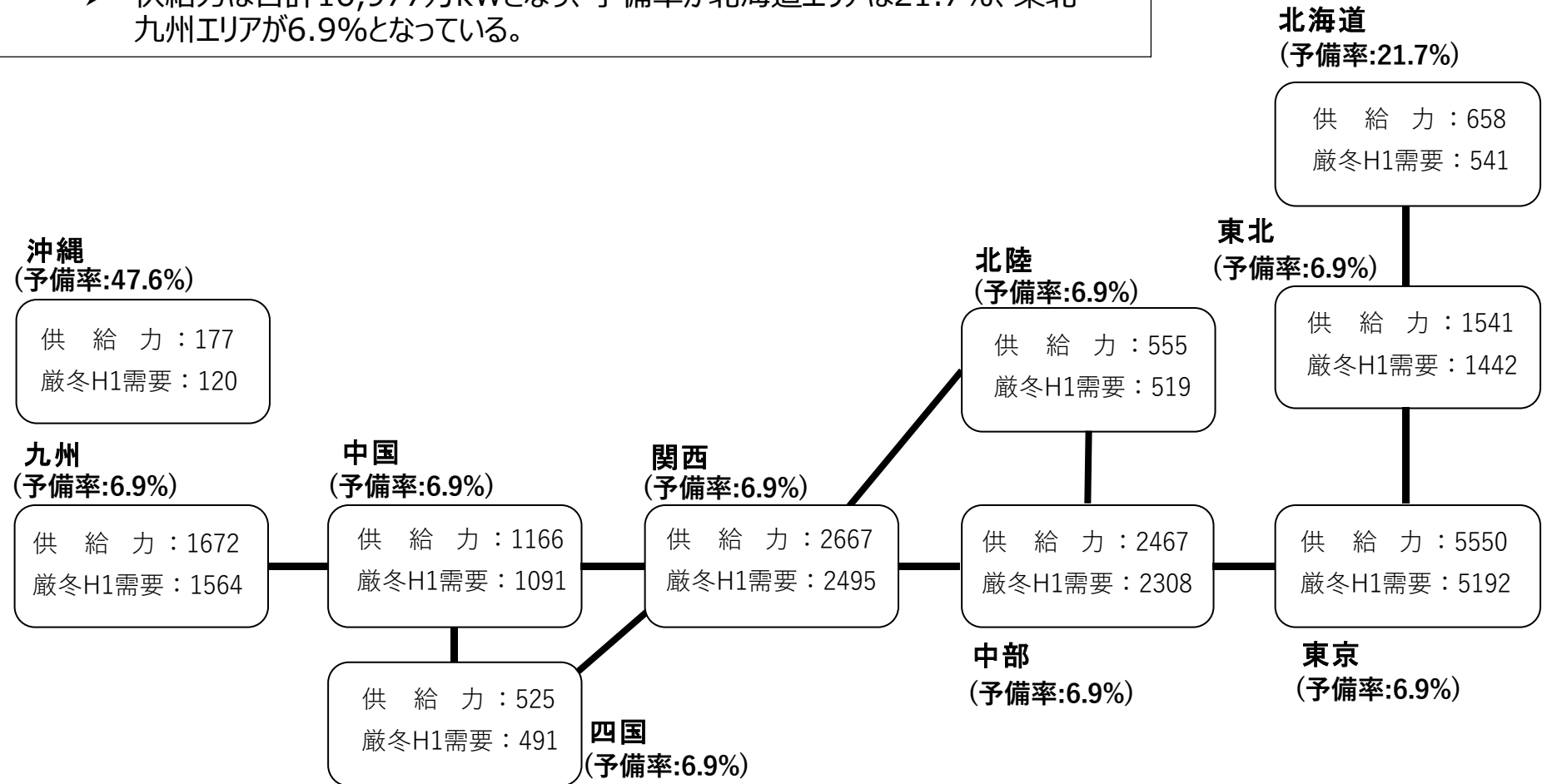
	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	沖縄
供給力	16,665									155
需要	14,673									101
予備力	1,991									53
予備率	13.6%									52.5%

【2月第4週】 リスクケースを適用した場合の広域的評価

<需給概況>

- 2月第4週に、**10年1回程度の厳冬需要（厳冬H1需要）が発生した場合**を想定。
 - 供給力は合計16,977万kWとなり、予備率が北海道エリアは21.7%、東北～九州エリアが6.9%となっている。

【単位：万kW】



<注記>

- 試算上、連系線の空容量利用により広域ブロックとなる場合には、各エリアで最大需要を記録する日時が必ずしも一致しない点（不等時性）を考慮し、各エリアの最大需要値から一定の割引を行っている。
- 公表日の朝時点でHJKS（発電情報公開システム）等において復旧未定の発電所は供給力に織り込んでいない。

リスクケース（H1需要を適用）

【単位：万kW】

	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	沖縄
供給力	658	16,143								177
需要	541	15,103								120
予備力	118	1,039								57
予備率	21.7%	6.9%								47.6%

過去の最大需要（広域ブロックでの予備率評価）

	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	沖縄
供給力	658	1,514	5,641	7,499					1,489	177
需要	493	1,280	4,810	6,236					1,231	87
予備力	165	234	831	1,263					258	89
予備率	33.4%	18.3%	17.3%	20.3%					21.0%	102.1%

月間需給予想（系統情報サービスで公表される、月間の電力需要予想・供給力）

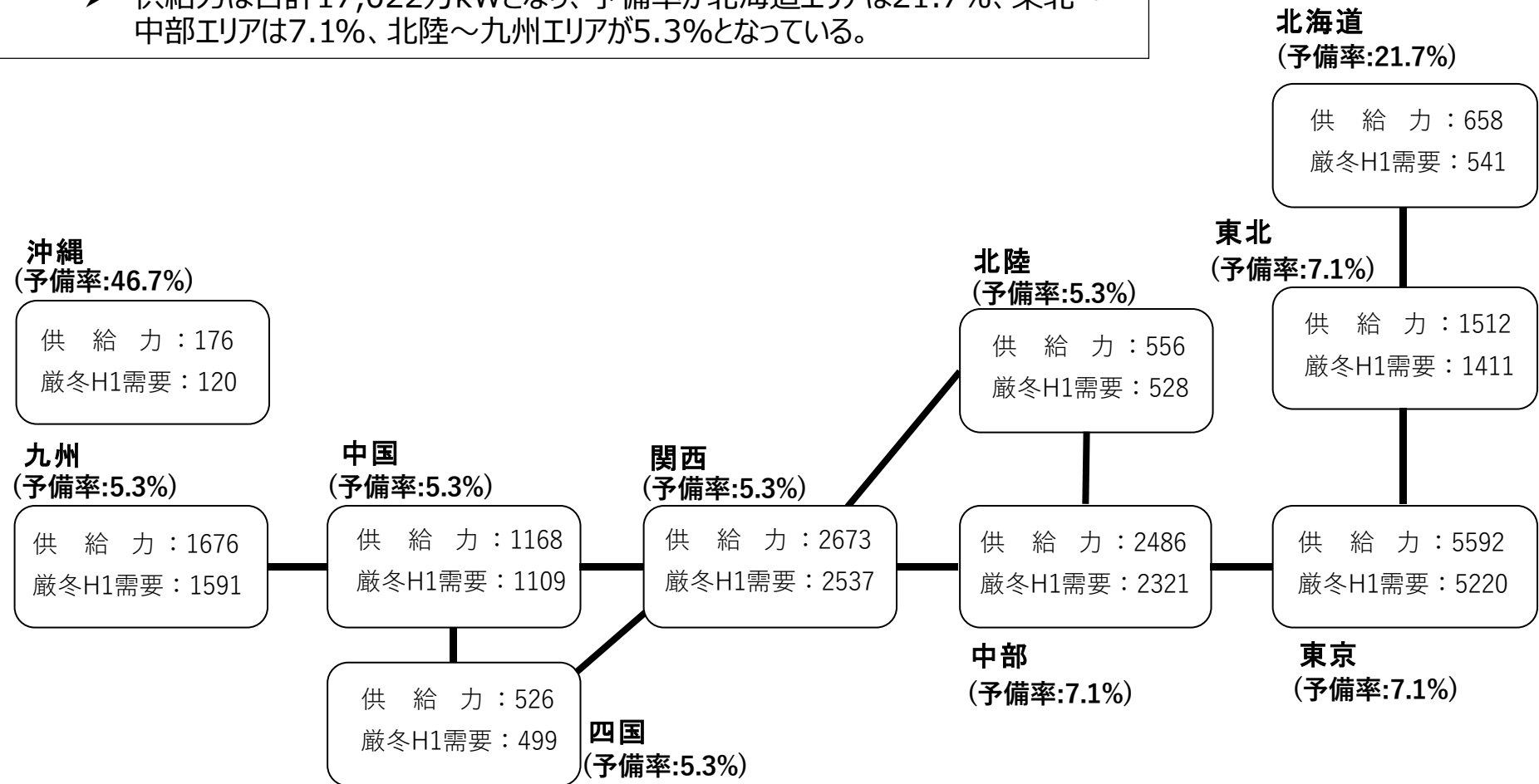
	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	沖縄
供給力	653	1,458	5,356	2,458	523	2,713	1,082	543	1,488	177
需要	493	1,240	4,773	2,105	445	2,210	950	453	1,350	103
予備力	160	218	583	353	78	503	132	90	138	74
予備率	32.4%	17.6%	12.2%	16.8%	17.5%	22.8%	13.9%	19.8%	10.2%	72.2%

【2月第5週】 リスクケースを適用した場合の広域的評価

<需給概況>

- 2月第5週に、**10年1回程度の厳冬需要（厳冬H1需要）が発生した場合**を想定。
 - 供給力は合計17,022万kWとなり、予備率が北海道エリアは21.7%、東北～中部エリアは7.1%、北陸～九州エリアが5.3%となっている。

【単位：万kW】



<注記>

- 試算上、連系線の空容量利用により広域ブロックとなる場合には、各エリアで最大需要を記録する日時が必ずしも一致しない点（不等時性）を考慮し、各エリアの最大需要値から一定の割引を行っている。
- 公表日の朝時点でHJKS（発電情報公開システム）等において復旧未定の発電所は供給力に織り込んでいない。

【2月第5週】 各評価結果

リスクケース（H1需要を適用）

【単位：万kW】

	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	沖縄
供給力	658	9,589			6,599					176
需要	541	8,952			6,264					120
予備力	118	638			335					56
予備率	21.7%	7.1%			5.3%					46.7%

過去の最大需要（広域ブロックでの予備率評価）

	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	沖縄
供給力	658	7,123			9,065					176
需要	480	5,707			6,927					87
予備力	178	1,416			2,139					89
予備率	37.1%	24.8%			30.9%					102.9%

月間需給予想（系統情報サービスで公表される、月間の電力需要予想・供給力）

	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	沖縄
供給力	653	1,426	5,356	2,589	519	2,709	1,067	543	1,457	176
需要	493	1,240	4,773	2,082	445	2,040	910	453	1,240	98
予備力	160	186	583	507	75	669	157	90	217	78
予備率	32.4%	15.0%	12.2%	24.4%	16.8%	32.8%	17.3%	19.8%	17.5%	79.5%